

## ① 学術口演 (学会, 研究会)

(演者名) 玉地嘉子

(共同演者名) 小村由美

(演題名) 手術室における配置換え看護師の教育体制の見直しと課題の検討

(学会名) 看護研究サポート事業 看護研究発表会

(平成28年2月6日, 開催地: 健診センター2階講堂)

(要旨) 手術室の配置換え看護師教育はプリセプターシップ体制で行っている。平成26年度は5名の配置換えがあった。これまでの教育マニュアルは評価ツールの不足など多くの問題点があり, これを機にマニュアルや体制の整備を行った。

整備した項目を各プリセプター・配置換え看護師に聞き取りの結果①チェックリストの内容修正②ツールの評価時期設定③レベル到達度の情報共有④配置換え看護師の葛藤を理解した関わりなどの課題が抽出された。

今回の振り返りを活かして今後も配置換え看護師教育を継続的に取り組んでいきたい。

(演者名) 玉地嘉子

(共同演者名) 小村由美

(演題名) 手術室における配置換え看護師の教育体制の見直しと課題の検討

(学会名) 日本手術学会 中国地区 (平成28年6月18日, 開催地: 岡山市)

(要旨) 手術室の, 配置換え看護師教育はプリセプターシップ体制で行っている。平成26年度は5名の配置換えがあった。これまでの教育マニュアルは評価ツールの不足など多くの問題点があり, これを機にマニュアルや体制の整備を行った。

整備した項目をプリセプター・配置換え看護師それぞれにインタビューした結果①各チェックリストの内容修正②評価ツールの評価時期の設定③レベル到達度のスタッフ間の情報共有④配置換え看護師の心の葛藤を理解した関わりなどの課題が挙げられた。

今回の振り返りを活かして今後も配置換え看護師教育を継続的に取り組んでいきたい。

(演者名) 前田洋志

(共同演者名) 落合豊和, 櫻 裕子

(演題名) 「手術室震災シミュレーションの効果～監査用紙を用いた第三者評価を行って～」

(学会名) 第38回 日本手術医学会総会

平成28年11月4日～5日 開催地: 沖縄県宜野湾市

(要旨) 「A病院は, 二次医療圏の中山間地域中核病院である。県内でも被害が予想されている南海トラフ巨大地震などの災害時には, 「誰が何をするのか」を明確にし, 被災状況を迅速に把握した上での対応が必要である。しかし, A病院手術室では定期的な災害訓練やマニュアルの整備が行われていなかった。そこで, 手術中に震災が発生することを想定したシミュレーションを行い, 監査用紙を用いた第三者評価とビデオ撮影を行った。今回, ビデオを用いた新人スタッフへの教育や継続的なシミュレーションの必要性など, 今後の示唆を得たので報告する。」

〈演者名〉落合豊和

〈共同演者名〉前田洋志・石原育美

〈演題名〉「地震発生時に手術室の安全を守ろう」

〈学会名〉第18回フォーラム「医療の改善活動」全国大会

平成28年10月28日～29日 開催地：倉敷

〈要旨〉「地震発生時の手術室の安全を守りたい」という思いから、震災のシュミレーションを実施した。2回行ったシュミレーションはいずれも監査を設け点数評価を行っていった。その結果、監査の点数が1回目19点、2回目26点となった。（点数が上がるほどよい）指示命令系統の統一と震災マニュアルの整備が行うことができた。

〈演者名〉城田菜美

〈共同演者名〉阿川純子，片山 香

〈演題名〉くも膜下出血後の脳血管攣縮気にある患者の家族の心理と看護師の関わり

〈学会名〉第33回日本集中治療医学会 中四国地方会

（平成28年2月20日 開催地 広島市）

〈要旨〉くも膜下出血後の患者の経過と、その家族の心理を山勢博彰の危機対処プロセスモデルを用いてアセスメントと分析を行い、家族の心理的变化と看護師の意図的な関わりの有効性を検討した。結果として、脳血管攣縮に伴う症状に家族は強く不安を感じ、自身の治療の選択が正しかったのか後悔していることが分かった。看護師が脳血管攣縮期の症状は約2週間続くことを説明したが、患者の症状が強くなるとともに家族の不安も強くなる状況があった。

〈演者名〉山田智子

〈共同演者名〉沖土居純子，田原ルミ子，胡子弥生

〈演題名〉緊急帝王切開で出産した母親の精神面を支える看護ケアについて

～産後1ヶ月健診でインタビューを行って～

〈学会名〉第42回広島県国保診療施設地域医療学会（平成28年8月27日，開催地 広島市）

〈要旨〉近年様々な理由により帝王切開を受ける母親は増加傾向にある。特に緊急帝王切開は経膈分娩とは異なる上に予期せぬ分娩方法を体験しているため、否定的感情を表出されることが多い。満足いく分娩体験へと導ける看護とは何かを明らかにする研究を行った。結果1. 産婦や家族の帝王切開に対する理解の程度や受け入れ状況を把握し、産痛緩和をはかりながら不安や緊張を和らげる看護。2. 手術後は身体的苦痛の緩和をはかりながら母子接触を行い、母子関係成立につなげる看護。3. 分娩体験を振り返り、否定的な思いを肯定的に受け止められるように意味づけを行う看護が必要であると導いた。

〈演者名〉土河美紀

〈共同演者名〉根間明子

〈演題名〉コーチングを活用した糖尿病患者の食事療法

〈学会名〉広島県国保診療施設地域医療学会

〈要旨〉糖尿病患者にとって食事療法は必要不可欠であるが、量的にも質的にも制限が多い。そこで、コーチングを活用し患者に合った食事指導を行うことで食事療法が継続しやすくなるので

はないかと考えた。今回、介入前にコミュニケーションタイプの分析を行った。分析結果を元に質問用紙等を用いながら介入を開始した。コーチング技法の「オープン型質問」を重視し関わり、自己で目標を挙げてもらい、退院後も継続できる方法を考えていった。その結果退院後も自己で決めた目標を継続することができ、データーも入院時の状態をキープすることができた。今回は1事例のみの介入であったが、今後食事療法についての介入が必要な患者にコーチングを活用した関わりを継続して行っていきたい。

(演者名) 山本賢二

(共同演者名) なし

(演題名) 経口抗がん薬による治療を自己管理できない患者への支援  
～アドヒアランスに影響する因子をもとにした看護介入～

(学会名) 第42回広島県国保診療施設地域医療学会

(平成28年8月27日、開催地 広島市)

(要旨) 当院で経口抗がん薬での治療を行っている患者の中には、確実な内服や副作用への対処といった治療の自己管理ができず、患者のアドヒアランスが十分とは言えない現状がある。そのため、患者のアドヒアランスを向上させ、治療の自己管理を促進させる必要があった。看護介入として、患者のアドヒアランスが不良となる因子を明らかにし、その不良因子の改善を図った。その結果、患者のアドヒアランスは向上し、経口抗がん薬による治療を自己管理できるようになった。

(演者名) 宗光仁美

(演題名) 再入院となった心不全患者への関わり

～セルフモニタリング能力を高める個別的援助～

(学会名) 第42回広島県国保診療施設地域医療学会

(平成28年8月27日、開催地 広島市)

(要旨) 心不全増悪により入退院を繰り返す患者は増加しており、増悪因子として患者自身の生活習慣が原因となっていることが多い。心不全増悪を予防していくためには、患者のセルフモニタリング能力を強化していく必要がある。本研究では、患者との面談で患者の生活習慣から入院の原因となった問題点を明らかにし、問題点に対して慢性心不全手帳を用いて個別的援助を行った。その結果、慢性心不全手帳を活用することにより、患者自身が体重の変化・心不全症状に気づくことができ、セルフモニタリング能力を強化することができた。また退院後も患者と関わることで、患者のセルフモニタリング能力を維持することができた。

(演者名) 飯崎益美

(演題名) PD外来の体制整備

(学会名) 広島県北部地区透析集談会 (平成28年5月20日、開催地 三次市)

(要旨) 平成27年4月に新たに腎臓内科が増え、同年10月からPD外来は外科から腎臓内科へ診療科が変更となり、腎不全保存期から透析維持期まですべて腎臓内科が対応されることになった。それに伴い体制変更を行い、整備をした。診療科変更に伴う患者対応の変更、問診票の導入と新書式のPD記録(患者個々に1年間の指導内容のスケジュールを組みこむ)、患者動線の変

更をした。患者のメリットとして、動線が短くなり、定期的指導によるセルフケアの意識付けとなった。看護師のメリットは、PD患者全体の年間計画が把握しやすくなり、年間スケジュールの中で実施する指導内容が明確になった。また、担当看護師が毎週交替しても、患者個々に注意すべき申し送りができるようになった。

(演者名) 三苦真理恵

(共同演者名) 高橋恵津子, 世羅節子

(演題名) 耐性菌を保有している患者の自宅退院への取り組み

(学会名) 第56回 全国国保地域医療学会

平成28年10月7日～8日 開催地：山形県山形市

(要旨) 急性期医療は、感染症の増悪を防ぐために広域抗菌薬を選択して初期診療を行う。培養等の結果でデ・エスカレーションを行い、適正使用に努めている。高齢者は易感染性で合併症も多く、頻回の抗菌薬投与が必要となり、耐性菌保有となる例が有る。急性期病院から地域へつなげていく際に、耐性菌がある事で受け入れサポート側が戸惑い、調整が困難になる症例を経験した。そのため多職種カンファレンスで感染教育を取り入れた結果、スムーズに自宅退院にむけた調整が行えた。

(演者名) 三苦真理恵

(共同演者名) 感染防止対策室：粟屋禎一, 山口伸二, 須々井尚子

(演題名) 結核対策を通してみえた地域の結核の現状と院内感染対策について

(学会名) 第55回 全国自治体病院学会

平成28年10月20～21日 開催地：富山県富山市

(要旨) 当院は地域中核病院であり、結核患者を早期に発見し、指定医療機関へ紹介したり、非感染性患者の治療を行う役割がある。高齢化率は30%を超え続け、結核の好発年齢層は増大している。感染防止対策室(以下ICT)が設置された2012年4月から現在までに経験した結核症例について、問題と捉えた外来・救急対応での3例と入院対応中発見された7例を元に、その特徴と感染対策について検討した。結果として、今後も全スタッフが結核を疑い、早期から空気感染対策を実施する事を目標に、ICT活動を継続していく必要がある。

(講演者名) 小村由美

(共同講演者名) 三苦真理恵

(演題名) 当院における手術部位感染 (SSI) の発生状況と課題

～消化器外科・産婦人科・泌尿器科手術におけるSSIサーベイランスのまとめ～

(学会名) 第31回日本環境感染学会総会・学術集会

(平成28年2月19～20日, 開催地 京都)

(要旨) 手術部位感染 (Surgical site infection : 以下SSI) の発症は、患者のQOLを低下させるだけでなく、入院日数の延長に伴う医療費の増加、病院経営の圧迫など様々な弊害を引き起こす要因となる。そのため手術に携わるスタッフは協働してSSI予防に努めなければならない。当院では2008年より消化器外科・産婦人科・泌尿器科手術においてSSIサーベイランスを実施している。2012年1月1日から2015年6月30日まで3年6か月分のデータをまとめた結果、当院のSSI

発生はJANISより多い傾向にあり、腸管内常在菌が多く分離されていることがわかった。今後の課題として、SSI事例を個別に分析し対策を検討することや、タイムリーな介入をするため小まめに情報収集すること、知識を実践できるスタッフの育成が必要である。

(演者名) 新谷ひとみ

(共同演者) 片岡光子, 佐伯俊成, 高広悠平

(演題名) 在宅緩和ケアへの取り組み

－がん診療連携拠点病院としての役割と活動・課題－

(学会名) 第55回全国自治体病院学会 (平成28年10月20, 21日, 開催地 富山)

(要旨) 地域在宅緩和ケア推進モデル事業で①在宅緩和ケア資源マップの作成, ②在宅緩和ケアコーディネーターを配置し顔の見える関係づくりの強化と施設訪問, ③出張緩和ケア, ④ネットワーク会議を実施した。モデル事業を通して, 多職種間の意見交換を活発に行い, お互いの顔の見える関係, 連携強化ができた。今後も, 地域と基幹病院を繋ぎ調整をするコーディネーターの活動, 出張緩和ケア, 研修会等を継続していくことが必要である。

(演者名) 新濱伸江

(共同演者名) 佐々木由紀 (広島大学大学院医歯薬保健学研究院) 重山千恵 (広島大学病院)

和田かおり (呉医療センター) 上野ゆか (中国労災病院)

松谷由美子 (JA吉田総合病院) 高原さおり (JA広島総合病院)

(演題名) 広島県緩和ケア認定看護師会の活動評価と運営課題)

(学会名) 第21回日本緩和医療学会学術集会 (平成27年6月17~18日京都国際会議場)

(要旨) 本会は地域に根ざした緩和ケアの質向上を発展に寄与することを目指し会員同士が連携をはかり, 認定看護師の役割遂行の研鑽の場として自主運営している。今回は活動の評価から今後の運営への示唆を得る事を目的とし, 本会会員34名を対象に郵送法の無記名式質問調査を行った。結果は, 回答率72%。回答者の85%は本会企画運営の情報交換会, 講演会, 活動報告会, 事例検討会が自身の活動に葉だったと評価していた。項目では, 緩和ケア認定看護師の活動を遂行刷るに辺り「指導のスキルが高まる」「研鑽の場となる」「困った時や悩んだ時に役立つ」「モチベーションを高める機会になる」などの評価が高かった。一方「地域連携を行う際に役立つ」の評価は低かった。これらのことから, 本会が企画運営した研鑽に関する活動は「緩和ケア認定看護師としての活動」に有用であった。しかし連携に関する活動は地域連携を含む「相互の連携」が不十分であることが明らかとなった。調査結果より連携を踏まえた情報伝達方法と媒体の見直しが示唆された。

### ③ 教育的講演・活動

(演者名) 片山 香

(共同演者名) 中島淳子

(演題名) 看護実践に活かすフィジカルアセスメント

(講演会名) 広島県看護協会新人ナース研修

(平成28年6月7日, 開催地 広島市 広島県看護協会会館)

(演者名) 片山 香

(演題名) フィジカルアセスメント研修

(講演会名) 広島県看護協会三次・庄原支部研修会

(平成28年7月10日, 開催地 三次市 市立三次中央病院健診センター大講堂)

(演者名) 飯崎益美

(演題名) PD看護

(講演会名) 第1回JMSクリニカルコースin広島 CAPDベーシックコース

(平成28年11月13日, 開催地 広島市 )

(講師名) 三苦真理恵

(演題名) すぐに役立つ感染症の話～保育所・幼稚園・小学校・中学校～

(講演会名) 平成28年度感染症対策研修会 備北地域保健対策協議会 感染症部会

2016年8月4日 広島県三次庁舎 第3庁舎601会議室

(講師名) 三苦真理恵

(演題名) 市中感染症, 持ち込みから拡げないために

(講演会名) 広島県保険医協会 2016年度医科医療安全管理セミナー

2016年11月17日 三次グランドホテル「豊明の間」三次市

(講師名) 三苦真理恵

(共同演者) 薬剤科 山口伸二

(演題名) 溶連菌感染症とジカ熱対策

(講演会名) 三次地区医療センター院内研修会

2016年6月9日, 6月16日 三次地区医療センター5F 研修室

(講師名) 三苦真理恵  
(共同者) 福原真理, 小村由美  
(テーマ) 「感染防止対策って?」  
(研修会名) 新入職者(中途採用者を含む)感染管理研修会  
2016年4月2日 当院, 近隣施設の新入職者

(講師名) 小村由美  
(演題名) 院内感染対策「感染経路別予防策」  
(講演会名) 安佐医師会医療安全・院内感染対策研修会  
(平成29年2月16日, 開催地 安佐医師会館講堂)  
(対象) 安佐地区医師会病院職員

(演者名) 福原真理  
(演題名) 透析看護  
(講演会名) 透析看護  
平成28年1月25日  
広島県立三次看護専門学校

(演者名) 福原真理  
(演題名) 透析中のトラブル対応・透析室の感染管理  
(講演会名) 透析看護  
平成28年12月16日 広島県看護協会

(講師名) 野田宏美  
(演題名) 「医療事故報告制度が始まって、私たちが心がけること」  
(講演会名) 広島県保険医協会 2016年度医科医療安全管理セミナー  
2016年11月17日 三次グランドホテル「豊明の間」三次市

講師名: 加井妻恵美  
演題: 「三次地区糖尿病地域連携パスにおける療養指導の現状と今後の課題」  
主催: 糖尿病療養指導チーム  
講演会名: 28年度 三次地区糖尿病地域連携パスを考える会  
開催日: 2016年9月13日(火)  
対象: 三次地区糖尿病地域連携パス連携医療機関, 糖尿病療養指導チーム

糖尿病地域連携パスを稼動し、3年が経過した。当院におけるパスの現状報告と、アンケート調査結果をもとに、連携医療機関へのフィードバック・情報交換・コメディカルの交流を目的に本会を開催した。パス導入時における1ヶ月ごとの療養指導による効果は、半年後のフォロー受診時には弱まるが、その後は一定の効果を維持することができた。継続した受診と療養指導が必

要であり、中断患者の追跡がいるなどの検討を行った。情報の共有ができ、今後も連携地域との交流の場を設けていきたいと考える。

(演者名) 加井妻恵美

(演題名) 三次地区糖尿病地域連携パスの取り組み～看護師のかかわり～

(講演会名) 第15回中四国糖尿病セミナー (平成27年3月13日, 市立三次中央病院)

(演者名) 加井妻恵美

(演題名) 足に関心をもとう～糖尿病とフットケア～

(講演会名) 第6回 みよしぶどう友の会 ウォーキング大会

(平成27年 11月19日, 市立三次中央病院)